

第49回日本運動療法学会学術集会

帝京大学医学部リハビリテーション医学講座 中原康雄

第49回日本運動療法学会学術集会は2024年6月29日(土)にサンシャインシティ特別ホール(東京都)で、帝京大学医学部リハビリテーション医学講座主任教授の緒方直史先生会長のもと開催されました。

日本運動療法学会は1975(昭和50)年に創設された歴史ある学会で、身体機能の回復・維持に不可欠と認識されてきた「運動」の効果を科学的に検証することを目的とした学会です。「温故知新—共にあゆむ運動療法—」を49回目となる今回の学術集会のテーマに掲げ、招待講演には、Tailor Made Back pain Clinic 院長で福島県立医科大学医学部疼痛医学講座特任教授の松平浩先生、札幌秀友会病院リハビリテーション科科長の杉原俊一先生、東京都立大学人間健康科学研究科理学療法科学域教授の金子文成先生をお招きし、共催セミナーでは帝京大学医学部整形外科准教授の石井桂輔先生に「三肢切断者の富士山登頂レポート～多職種チームによる挑戦～」の演題名でご講演をいただきました。

講演や研究発表では過去の運動療法の実績を活かした未来への運動療法の可能性について活発な議論があり、運動療法の対象は医療・介護のみに留まらず、高齢者の健康増進のためであること、また高齢者のみを対

緒方直史先生による
会長挨拶



学術集会のポスター

象とするのではなく若いときからの運動療法の重要性についても再認識することができた学術集会となりました。次回は節目となる第50回の学術集会となります。奮って、ご参加ください。

第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会

鹿児島市立病院リハビリテーション部 鶴川俊洋

第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会は、2024年7月13日(土)～14日(日)、徳島大学循環器内科学分野教授の佐田政隆会長のもと、神戸国際展示場・神戸国際会議場で開催されました。

「サイエンスしていく心臓リハビリテーション」が今回のメインテーマでしたが、30回記念を踏まえて「すべての企画にGOを出しました」という会長の意図が込められた、盛りだくさんのプログラムが組まれた学術集会でした。会長講演では自らの医学生時代の経験、インターベション医としての経験と限界、そして動脈硬化性疾患再発予防のための基礎研究成果と心臓リハビリテーションの重要性を熱く語っておられました。また「チーム医療賞」が新設され、研究面のみならず実臨床での多職種医療チームの取り組みが評価されました。毎年会員が増え続け会員総数15,000名以上となった日本心臓リハビリテーション学会ですが、今回の学術集会は天候に恵まれ初日早朝から盛況で最終的に約



徳島大学病院栄養部
監修の弁当の包み紙

5,500名の現地参加者となりました。口演14会場やポスター・セミナー会場に分散しながらも立ち見の会場が続出し、非常に活気にあふれた学術集会でした。ランチョンセミナーでは徳島大学病院栄養部が監修された動脈硬化予防提唱の弁当が用意され、細部にわたって会長の想いが盛り込まれていました。

今回は藤田医科大学の井澤英夫教授を会長として2025年7月19日(土)～20日(日)にポートメッセなごやで開催が予定されています。